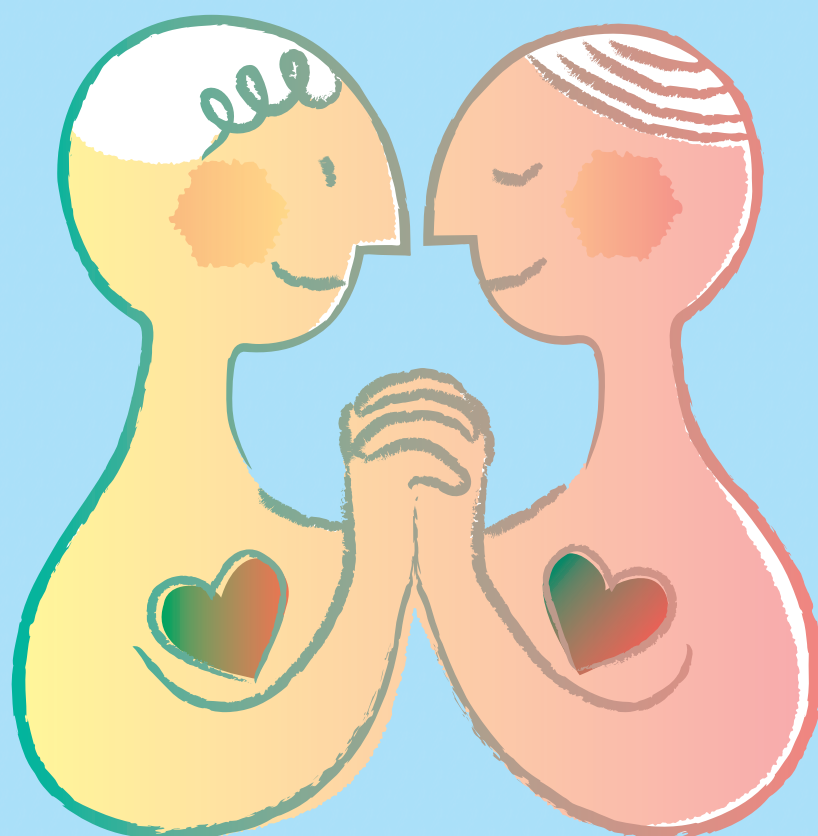


令和2年度 厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修事業

ピア・サポーター 養成テキスト

2020年度版



令和2年度 厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修事業

ピア・サポーター 養成テキスト

2020年度版

はじめに

がん患者の不安や悩みを軽減するために、がんを経験した者もがん患者に対する相談支援に参加することが必要であることから、平成23～25年度に実施された厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業」でピア・サポーター研修プログラム、並びにピア・サポーター養成研修テキスト（がんサロン編・ピア・サポーター編）が作成されました。

しかし「がん対策に関する行政評価・監視結果報告書（平成28年9月総務省）」では、一部の都道府県で研修が実施されていない、拠点病院における相談支援や患者サロンへのピア・サポートの受け入れが十分に進んでいない状況が指摘されています。またその理由として、地域により活動が活発でないことがあること、患者会活動を通じた患者支援ではそれぞれの会の特性を生かした支援を行っており研修を必要としないこと、病院側の問題としてピア・サポーターの相談対応能力が分からないこと、患者とのトラブルへの対応方針ができていないことなどが挙げられました。旧研修プログラムが地域の主体性を重視するあまりに普及が阻害されている側面が考えられ、緩和ケア研修会・ピア・サポート研修などが提案されています。

平成30年度厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」では、これらの経緯をもとに、ピア・サポーター養成研修プログラムならびに研修テキストを改訂しました。

本研修会、テキストの対象は、以下をおもに想定しています。

- ・これまでピア・サポート活動が行われていない、もしくは十分な規模でない地域で、自治体や医療機関（おもにがん診療連携拠点病院）とがん体験者が協力してピア・サポートを立ち上げる状況での研修
- ・相談員のように利用者の幅広い相談への対応を行えるピア・サポート（ピアスペシャリスト）ではなく、相談員としての訓練が十分でなくても自身の体験を生かして行うピア・サポート

そのため、患者会などが主体となり活動を行っている場合や、ピアスペシャリストとしての活動を行っている場合は、本事業による研修会、テキストの内容がそぐわないと感じられることがあるかもしれません。本事業はピア・サポートが行われていない地域への普及を目指したものであり、すでに活発な活動が行われている状況に対する研修プログラムではないことをご理解ください。

2019年2月

平成30年度がん総合相談に携わる者に対する研修事業
ピア養成研修ワーキンググループ長 秋月伸哉

目次

はじめに	3
------------	---

I ピア・サポートとは

A. ピア・サポートとは	10
1. がんのピア・サポートとは何ですか?	10
2. ピア・サポーターとは?	11
B. ピア・サポートの意義	11
1. ピア・サポートはどのように役立ちますか?	11
2. ピア・サポートと医療者の違い	14
コラム 本研修以外で行われているピア・サポートについて	16

II ピア・サポーターの役割と活動指針

A. ピア・サポートを行うこと	18
1. 利用者の話を聴く	18
2. 体験を共有し、共に考える	19
3. 自分を知ることと、体験を語ること	20
B. 守るべきこと	24
1. プライバシーを守る	24
2. 医療行為に関する内容に踏み込まない	25
C. 振り返りをする	27
1. 活動の振り返りをする	27
2. 記録を利用しましょう	28
コラム プライバシーと守秘義務	34

Ⅲ 相手を大切にすること、自分を大切にすること — バウンダリーについて

A. バウンダリーとは	36
B. バウンダリーを守るうえで必要なこと	36
C. 自分自身が傷ついてしまった時には	39
コラム ピア・サポーターが知っておくとよい情報	40
1. がん相談支援センター、相談支援センター	40
2. がん情報サービス (http://ganjoho.jp/)	41

Ⅳ ピア・サポーターとして身につけておきたい コミュニケーションスキル

A. 基本的なコミュニケーションスキル	44
1. 話を聴く	44
2. 話を聴く際に配慮すること	44
3. ピア・サポートに役立つ会話のヒント	47

Ⅴ ピア・サポートの活動と実践 — グループでのピア・サポート活動

A. グループでのピア・サポート(がんサロン)のかたち	50
1. がんサロンの参加者	50
2. 参加・不参加のルール	51
3. 開催場所	52
4. がんサロンの開催日時	52
5. スタッフの役割	53
B. がんサロンの開催	53
1. がんサロンのルール	53
2. がんサロンの準備と広報	54

3. がんサロンの実施	55
4. がんサロンの振り返り	58
5. がんサロンのあと	59

C. がんサロンでのよりよいコミュニケーションのために	59
1. 参加者を尊重する	59
2. 運営者が配慮すること	60
3. 進行役が配慮すること	61



VI がんサロンで起こり得る事例と対応のヒント

DVD対応

A. 特定の参加者だけが話をする	66
B. 発言しない参加者がいる	68
C. 参加者間で意見・話題がかみ合わない	70
D. 考えを強く主張し続ける参加者	72
E. 感情を強く表す参加者	73
F. 治療や病院の選択に関する話題	75
G. がんの再発や死に関する話題	77
1. 再発に関する話題	77
2. 参加者の死に関する話題	79
3. 遺族にどう対応するか	80
H. 解決すべき問題を抱えている	83



VII ピア・サポート活動のために医療者ができること

A. 背景	86
B. ピア・サポート活動の意義を理解し、目的を明確にする ...	87

1. ピア・サポート活動の意義を知り、共通理解をする	87
2. 院内での理解者、協力者を増やす	87
3. ピア・サポーターの立場性を理解する	87
4. ピア・サポート活動のコンセプトをつくる	87
5. ピア・サポート活動の企画書を作成する	89
C. 院内でのピア・サポート活動を支える組織をつくる	89
1. 組織の位置づけを決める	89
2. 組織のメンバー構成を決める	90
D. 予算の確保をする	90
E. ピア・サポート活動の決まりごとをつくる	90
F. 実際のピア・サポーターへの支援	91
支援内容の例	91
G. 患者さんやご家族、市民への広報を行う	92
H. 院内の職員への周知を行う	93

VIII 自治体単位で行うこと

A. ピア・サポートをめぐる背景	96
1. 自治体としての役割—ピア・サポーターを養成し、プールする	99
2. 医療機関の役割	100
3. 自治体が行う役割	100
B. スキルアップの機会を作る	101
C. サロン間のネットワーク・情報をまとめる	101
 コラム 適切ながん情報を得る 情報リテラシー	102
D. 具体的な導入事例	102
1. 熊本県の取り組み	102
2. 千葉県ピア・サポート事業	104
 コラム 地域のピア・サポートを把握し情報提供する	108